観光オープンデータ推進・市民向け観光波及効果の情報発信

現状及び課題、解決策と目指す姿

- 廿日市市は宮島を中心に観光資源が豊富である一方、旅行者の大半が日帰りであり、宿泊率や消費額が低い。
- 観光による地域経済への貢献が限定的であり、日帰り観光客による混雑で生活への影響も顕在化している。
- 観光関連データを収集、可視化、オープン化し、事業者の意思決定支援や施策実施を伴走支援することで、収益向上、生産性向上を図る。
- 市民に対して観光の波及効果をわかりやすく発信することで、観光振興への理解と協力体制を醸成し、地域全体の活性化を目指す。

事業概要

廿日市市では、宿泊率の低さや消費額の伸び悩みといった課題に対し、観光関連データの収集、可視化、オープン化を通じて、事業者の収益向上と市民の理解促進を図る取り組みを実施する。ウェブアンケートや宿泊、来島者、ウェブアクセスデータを活用したダッシュボードを導入するとともに、事業者に対して施策の実行と効果検証に向けて伴走支援を行う。また、観光振興の波及効果を市民に伝えるための視覚資料(インフォグラフィック)を制作、発信し、観光振興に地域全体で参画する体制づくりを進める。

取組地域： 広島県廿日市市

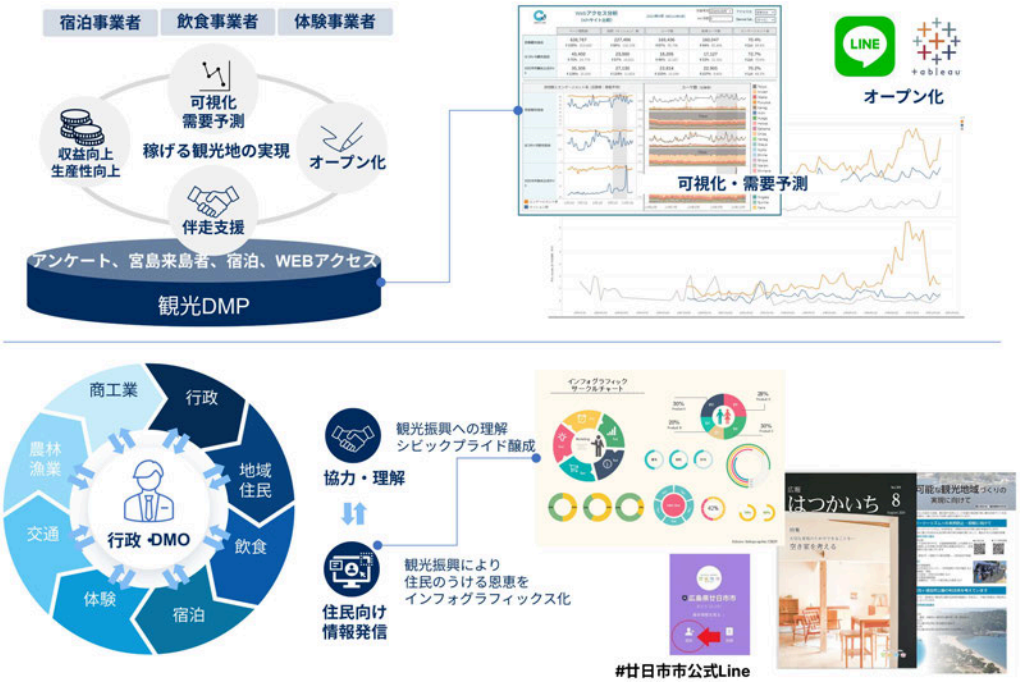
コンソーシアム名： 廿日市市観光DX推進コンソーシアム

代表事業者： 株式会社地域創生Coデザイン研究所

実証内容

1. ウェブアンケートを用いた旅行者のデータ収集、オープンデータ化
2. 飲食店、宿泊事業者による経営の最適化等、事業者によるオープンデータを活用した施策実施
3. 情報発信等による観光施策の市民への理解促進

目標値

KGI　事業者の売上、利益額向上(9,000,000円)

KPI　オープンデータを活用した施策実施件数(4件)